

MABATO

～ フィリピン・マバト地区との交流 ～



2026年2月5日(木)～2月11日(水)

フィリピン・ユース・スタディツアー

参加者募集

困難を抱えつつも神と共に生き、喜んで世に仕えておられるフィリピンの教会を訪問し、そこで出会う人々と交流します。日本とは比較にならない貧困を見る時、私たちの価値観や生き方に必ず変化が生じます。ぜひ一緒に旅しましょう！

【参加対象】高校生以上～青年（教師も歓迎）

【訪問先】フィリピン ルソン島 サン・マルセリーノ周辺
マニラ市内（集合解散は福岡空港）

【参加費】約10万円

（航空券代、宿泊費、活動費、食費等、すべて込み）

【引率委員】

発 将貴（宣教協力部門委員長、西福岡教会）

長谷川渉（協力委員、過去6回参加・引率、津屋崎教会）

【通訳協力】

戸田奈都子（前部門委員長、過去6回参加・引率、川内教会）

【旅程・訪問先】別紙に詳細を載せています

【旅に関するご相談や問い合わせ】

080-5155-4573（長谷川渉）

関心ある方（保護者様）はぜひ一度お電話ください

【申し込み先】nfcmen@gmail.com（発 将貴）

締め切り 12月20日

これまでの旅の様子がわかる写真を掲載しています。QRコードをスマホで読み取って簡単にご覧いただけます。



*全体的に無理のないゆったりスケジュールです。

*参加者を対象にした事前説明会を1月頃オンラインで行います。



マバト開拓伝道

フィリピン・サンバレス州マバト地区は、1990年のピナツボ火山大噴火によって田畑や家屋が火山灰で埋まってしまい避難生活・仮住まいをしていたアエタ（先住・少数）民族が1997年に移住・定住した地域で、現在40の大家族が住んでいる。残念ながら教育への関心はそれほどなく、多くの子どもたちが13～16才で結婚・出産。収入は主に木炭作り・漁業・狩り・イロカノ民族が所有する田畑での日雇い労働等に就いている。食料・生活必需品・薬などは慢性的に足りていない。

フィリピン合同教会(UCCP)は、宣教方策【教会の立つ地域の人々の生活が豊かになるために奉仕する】に基づいて、2013年より一番近い町サン・アントニオ教会(車で1時間)のシャル・ガボンリー牧師夫妻が“開拓”伝道を開始。月に2回ほど、こどもの礼拝やおとなのためのバイブルスタディなどを行い、炊き出しや教育支援が行われている。特にコロナ・パンデミックの間は食糧が尽きて危機的状況となり、サン・アントニオ教会は近隣の教会、他教派の教会に呼びかけて、アエタの人々の集落に食糧を届け続けた。九州教区も緊急支援献金を送りお米・食糧・油などを購入して頂いた。

マバト献金のお願い

フィリピン宣教協力献金

最も貧しい地域に仕えるフィリピン教会のために

毎月500円献金へのご協力をお願いいたします

振替用紙にてご送金ください。個人のお名前でご献金して下さる方もおられると思います。教会のご担当者様は、お手数ですが振替用紙の通信欄に「①献金者の所属教会、②お名前、③献金額」を記してください。できれば年間分をまとめてご送金ください。

～メッセージ～

フィリピン合同教会・中部ルソン教区西中部ルソン地区・

Diaconal Minister ジェニファー・S・ガギさんより

「主は私の羊飼い、私は乏しいことがない。」(詩編23:1)

この聖書のみ言葉は、キリスト者として、そして特に教会のワーカーとしての私を、日々の生活と信仰において大いに助けてくれました。羊飼いとしての神の導きに信頼を置くことで、どのようなことがあろうとも、究極の安心と充足は神にあるとの確信を持って生きていくことができます。



キリストにある兄弟姉妹の皆さん、平和の挨拶を申し上げます。フィリピンのジェニファー・S・ガギと申します。

みんなからはフェイと呼ばれています。2018年から2019年までは神学校に通っていました。(2020年から2021年は新型コロナのため授業が中断されていました。)神学校が授業を再開した後、2021年から2023年まで学業を続けました。現在は、会計学士の取得を目指して学部に通っており、バギオ市にあるエキュメニカル神学院の教会音楽とキリスト教教育の神学士号を持っています。私はフィリピン合同教会の2023年の年次総会において、正式に Diaconal Minister として任命され、中部ルソン教区西中部ルソン地区で奉仕しています。

Diaconal Minister として、私は教会の音楽活動全般の指導と教育の責任を負っています。教会での職務としては、キリスト教教育の責任者として、特に教会学校と聖書研究会で子どもや青年を教えています。また、毎年の夏休みの教会学校のプログラム作りも担当しています。

私がサンバレス州のマバト宣教アウトリーチで兄弟姉妹に初めて会ったのは2015年のことでした。UCCPの全国本部が先住民族の先祖伝来の土地に関するフォーラムを開催したときです。先住民の方々の状況に私は心打たれ、涙を流し、打ちのめされました。そして、「どうしてこれら強欲な人々が、先住民の人たちにこのような不当な仕打ちをするのか」と思いました。心の底から、私は先住民人たちに同情しています。けれども、その方々の生(いのち)の真の価値と意味を完全に理解することは自分には決ってできないことを知っています。なぜなら、先住民の一人になったとしたらどのような気持ちになるか、私は一度も経験したことがないからです。本当に大切なことは、誰がその人々に良いことをしたかではなく、その方々を尊重し、大切にし、理解し、自分が接してほしいように接することです。先住民コミュニティの子どもたちの窮状を目の当たりにして、目を見開かされました。マバトの方々がより良い生活を送るために、私たちにはもっと多くのことができるはずだと気づきました。私は今、マバトの方々の夢を叶え、神との関係を育むために、どのようにすれば役割を果たせるか、模索しています。

2016年、私はボランティアとしてVCSチームの一員となり、教師の一人として4日間滞在し、素晴らしい関係を築くことができました。

私が子どもミニストリーで重点的に取り組んでいるのは、子どもたちに信仰について教え、イエスとの生涯にわたる強い関係を築くことです。効果的なミニストリー、とりわけマバトやピントランのような遠隔地でのミニストリーは、子どもたちが愛され、自分は教会コミュニティに完全に受け入れられていると感じられるよう、魅力的で楽しく、包括的なものであるべきだと思います。これこそ、私の核となるビジョンと使命です。私たちのキリストの体としての召命は、人々を歓迎することです。そして、最も効果的な方法の一つは、その方々が私たちのドアを開けて入って来る時、どんなに困難な時にも共に歩むと決心した共同体へとその方々を迎え入れることです。マバトだけでなく、プンダキやピントランの子どもたちも私を虜にし、今もなお、子どもたちは私の宣教の旅における最大の元気の素です。最も重要なポイントは、イエス・キリストの福音がいかにすべてを変えるかということです。私が神の家族の一員とさ

れて、その一員であることを学んだ場所は、子どものミニストリーであると心から言うことができます。

さらに言えば、子どものミニストリーは神の愛の完全なる啓示を理解する助けにもなりました。それは、他者に仕えることを通してのみ得られるものです。なぜなら、愛というものには表出が必要だからです。愛の実践は礼拝を倍化させます。そのところで私は、本来の自分になる仕方を真に学びました。過去9年の間には、教会の別の場所で奉仕するようにと主が求められた時期もありましたが、子どものミニストリーということでは、私はいつも主に「はい」と答えようと思っています。この働きは、私やあなたがたのためでも、あるいは他者のためでも、組織のためでもなく、神のためのものです。

箴言22章6節の「歩むべき道に応じて若者を訓練せよ。そうすれば年老いてからもそれることはない」とのみ言葉は、私が喜んでお伝えしたいことを表しています。マバトでの9年間の宣教を通して、かつての子どもたちが若者へと成長し、今では夏休みの教会学校プログラムや日曜学校の教師として活躍するのを見てきたからです。青年たちは、地区や教区の様々な活動やプログラムにも積極的に参加しています。

夏休みの教会学校プログラム
(2016年から2025年、9年後)



マバト宣教アウトリーチ・ピントラン宣教アウトリーチ



フィリピン合同教会プンダキ礼拝所



「すべての祝福の源である神をほめたたえよ。」日本基督教団九州教区は、サンバレスにおける私たちの宣教活動において重要な役割を果たしてくださっています。現在、私たちは二つの宣教アウトリーチ、すなわち元々のマバト宣教アウトリーチと新しく始めたピントラン宣教アウトリーチを行っています。この宣教の働きは、皆さまのご助力と経済的ご支援がなければなりません。皆さまの献金とご支援のおかげで、私たちは誠実なミニストリーを通して、神の豊かな宣教活動に携わることができます。皆さまは私たちにとって真の祝福です。神によって用いられた方々がお返しとしての祝福を受けられますよう、お祈りいたします。

私たちの共同体における神の慈しみは、私たち皆が良い人生を送る助けとなります。私たちが主のことを羊飼いとして見て慕い、「私は乏しいことはない」という真理に基づいて生きていくよう、さらに成長できますように願います。神に栄光がありますように!